

研究教育業績（2014-2018 年度）

I. 研究業績

1. 主な発表論文

[原著論文]

- 1) Takizawa Y., Tobe Y., Sakamoto N., Hayashi M., Effects of Intestinal Ischemia/Reperfusion on Organic Cation Transporters mRNA Expression Level in Rat Small Intestine. *Sch. Acad. J. Pharm.*, 8(2), 44-50 (2019)
- 2) Takizawa Y., Koda D., Takahashi M., Komura Y., Kizawa M., Kurita T., Nakajima T., Influence of Non-Alcoholic Beverage on Gastrointestinal Epithelial Cells, *Sch. Acad. J. Pharm.*, 7(5), 203-207 (2018)
- 3) Takizawa Y., Sakamoto N., Tobe Y., Hayashi M., Changes in Function and Expression Level of Multidrug Resistance-Associated Protein during Intestinal Ischemia/Reperfusion, *Sch. Acad. J. Pharm.*, 7(2), 60-66 (2018).
- 4) Kishimoto H., Miyazaki K., Takizawa Y., Shirasaka Y., Inoue K., Absorption-enhancing effect of nitric oxide on the absorption of hydrophobic drugs in rat duodenum, *J. Pharm. Sci.*, 105, 729-733 (2016)
- 5) Takizawa Y., Kishimoto H., Tomita M., Hayashi M., Changes in the Expression Levels of Tight Junction Components during Reconstruction of Tight Junction from Mucosal Lesion by Intestinal Ischemia/Reperfusion, *Eur. J. Drug Metab. Pharmacokinet.*, 39, 211-220 (2014).

[著書]

- 1) 瀧沢裕輔、林 正弘、3.1.2. In situ 実験、薬剤学実験法 必携マニュアル II 生物薬剤学、P47-54、南江堂（2014年）

2. 主な学会発表

[国際学会]

- 1) Takizawa Y., Kishimoto H., Furuya T., Inoue K., Changes in drug absorption by pharmaceutical excipients in rat small intestine. 19th North American International Society for the Study of Xenobiotics Meeting/ 29th Japanese Society for the Study of Xenobiotics Meeting. (2014. 10, San Francisco, USA)

[国内学会]

- 1) 瀧沢裕輔、高橋優斗、宮部耕佑、栗田拓朗、中島孝則、経口投与製剤の溶出性および膜透過性に対する併用薬の影響～ミコフェノール酸モフェチルを用いた検討～、日本薬学会第 139 年会（2019 年 3 月、千葉）
- 2) 伊藤創馬、大戸智絵、菊池 蘭、太田美鈴、日高慎二、瀧沢裕輔、栗田拓朗、中島孝則、ベルソムラ[®]錠の一包化に向けた保存条件の検討、日本薬学会第 139 年会（2019 年 3 月、千葉）
- 3) 石山萌子、坂森あすか、小嶋ひかる、草野滉平、栗田拓朗、瀧沢裕輔、中島孝則、添加剤から構成されるイオン液体に対するクルクミン溶解性の評価、日本薬学会第 139 年会（2019 年 3 月、千葉）
橋本実菜、齊藤大悟、朝 優佑、間野綾菜、澤口能一、瀧沢裕輔、栗田 拓朗、佐竹 清、岩田政則、中島孝則、アルギン酸によるウリナスタチン膾坐剤徐放化の検討、日本薬学会第 138 年会、3

月、金沢（2018）

- 2) 岸本久直、宮崎歌織、村谷美穂、瀧沢裕輔、白坂善之、井上勝央、脂溶性薬物の腸管吸収に与える粘液層の影響、日本薬学会第 136 年会、3 月、横浜（2016）
- 3) 岸本久直、宮崎歌織、瀧沢裕輔、白坂善之、井上勝央、脂溶性薬物の腸管吸収改善を指向した一酸化窒素供与体の有効性評価、第 21 回創剤フォーラム若手研究会、11 月、東京（2015）
- 4) 岸本久直、宮崎歌織、瀧沢裕輔、白坂善之、井上勝央、ラット消化管での脂溶性薬物吸収に対する一酸化窒素の影響、日本薬物動態学会第 30 回年会、11 月、東京（2015）
- 5) 宮崎歌織、岸本久直、瀧沢裕輔、白坂善之、井上勝央、脂溶性薬物の消化管吸収に与える一酸化窒素供与体の影響、第 4 回医薬工 3 大学包括連携推進シンポジウム、6 月、東京（2015）
- 6) 宮崎歌織、岸本久直、瀧沢裕輔、白坂善之、井上勝央、経細胞輸送を介した薬物の消化管吸収に及ぼす一酸化窒素の影響、日本薬剤学会第 28 回年会、5 月、長崎（2015）
- 7) 岸本久直、瀧沢裕輔、井上勝央、薬物の小腸粘膜透過性に対する各種医薬品添加剤の影響、日本薬剤学会第 29 回年会、5 月、さいたま（2014）

3. その他特筆すべき研究業績

【研究費の受け入れ状況】

- 1) 中富健康科学振興財団研究助成金（研究代表者）、経口投与製剤の後発品への切り替えおよび併用摂取における溶出性・膜透過性の変化に関する研究、1,500 千円（2018-2019）
- 2) 科学研究費補助金（若手研究）（研究代表者）、細胞内 GTP 量制御を用いた新規細胞膜透過性制御機構の開発、4,030 千円（2018-2020）
- 3) 平成 29 年度日本薬科大学学術研究助成金（研究代表者）、医薬品添加剤の差異が及ぼす医薬品の溶解性・膜透過性・薬効への影響、350 千円（2017）
- 4) 上原記念生命科学財団リサーチフェローシップ、GTP 代謝を標的とした癌の新規診断・創薬基盤技術の開発、4,000 千円（2016）
- 5) 中富健康科学振興財団研究助成金（研究代表者）、上皮系細胞バリア機能の解除による薬物送達の効率化、1,500 千円（2014-2015）
- 6) 科学研究費補助金（若手 B）（研究代表者）、医薬品添加剤を利用した新規吸収促進技術の開発、2,990 千円（2013-2014）

II. 教育業績

1. 担当授業科目

2018 年度（日本薬科大学）

薬物動態解析（3 年後期）15 コマ

薬物送達法（3 年後期）7 コマ

薬剤系実習

薬学総合演習 I（4 年）3 コマ

薬学総合演習 II（6 年）2 コマ

2017 年度（日本薬科大学）

薬学原書講読 I（3 年前期）分担 2 コマ

薬物動態解析（3 年後期）15 コマ

薬剤系実習

薬学総合演習Ⅰ（４年）３コマ

薬学総合演習Ⅱ（６年）２コマ

2016年度（米国シンシナティ大学へ研究留学のため担当授業無し）

2015年度（東京薬科大学）

生物薬剤学（２年後期）分担４コマ

総合生物演習（薬物速度論）（４年前期）７コマ

特許レギュラトリアルサイエンス（５年後期）分担２コマ

創薬ゼミナール（３年後期）１３コマ

アドバンス英語（５年）１３コマ

アドバンス演習（生物薬剤学）（６年）分担２コマ

医療薬学演習Ⅱ・i、ii（ラボラトリー演習(1)、(2)）（5,6年）１３コマ

創薬実習 薬剤学実習（生物薬剤学実習）（３年後期）

2014年度（東京薬科大学）

生物薬剤学（２年後期）分担４コマ

総合生物演習（薬物速度論）（４年前期）７コマ

特許レギュラトリアルサイエンス（５年後期）分担２コマ

創薬ゼミナール（３年後期）１３コマ

アドバンス英語（５年）１３コマ

アドバンス演習（生物薬剤学）（６年）分担２コマ

医療薬学演習Ⅱ・i、ii（ラボラトリー演習(1)、(2)）（5,6年）１３コマ

創薬実習 薬剤学実習（生物薬剤学実習）（３年後期）

2. その他特筆すべき教育業績